



日本小児アレルギー学会

Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

理事長ニュースレター

日本小児アレルギー学会第13期理事長 藤澤隆夫

2016.10.7 発行 (第4号)

はじめに

ニュースレター第4号をお届けします。会員の先生方による成果のアップデートです。本号は2016年4月(後半)より2016年9月までの約5ヶ月の活動報告とします。

会員数について

2016年9月30日現在、会員数は**4057名**(名誉会員19名を含む)となりました。本年3月に4000名を超えてからも着実な伸びです。しかし、会員数の伸びには地域差がありますので、アレルギー診療の均てん化のためには、学会として、より一層のアピールが求められていると考えます。

食物アレルギー診療ガイドライン2016発刊！！ 2016年10月8日

食物アレルギー委員長 海老澤元宏先生、副委員長 伊藤浩明先生の卓越したリーダーシップのもと、若手の執筆協力者も加えてのガイドライン改定作業が完了しました。近年、食物アレルギーの病態解明や診断法、適切な管理法についての進歩には著しいものがありますが、2012年版以来4年ぶりのアップデート版は最新の研究成果・エビデンスを取り入れた充実した内容となっています。

第1章 定義・分類・症状	第8章 栄養・食事指導
第2章 免疫学の知識	第9章 経口免疫療法
第3章 疫学・自然歴	第10章 症状の重症度判定と対症療法
第4章 予知と予防	第11章-1 食物依存性運動誘発アナフィラキシー
第5章 食物アレルゲンの知識	第11章-2 口腔アレルギー症候群
第6章 診断と検査	第11章-3 ラテックス-フルーツ症候群
第7章 食物経口負荷試験	第12章 消化管アレルギーとその関連疾患
	第13章 患者の社会生活支援

わが国の食物アレルギー診療のスタンダードとして、ぜひご利用ください。近く、英語版も出版される予定で、世界への情報発信も行います。

第2回臨床研究支援セミナー開催 2016年8月19-20日

Clinical Research Supporting Seminar (CReSS)

さまざまなクリニカルクエスト (CQ) をおもちの先生方を対象に、臨床研究の最新の手法を系統的に学んで質の高い研究に結実していただくための臨床研究支援セミナー (CReSS) を昨年度よりスタート、今年は2回目となりました。

外部を含めた一流講師陣による講義とともに、グループ演習として、参加者が提案したCQを構造化、模擬的ながらも研究計画にまで作り上げるという2日間の合宿形式のプログラムに、40名の方が熱心に参加されました。

第1日

CQから研究デザインを構築する
観察研究の進め方
臨床研究のピットフォール
倫理指針を踏まえた研究計画
グループ演習

第2日

臨床研究と統計学：実例から学ぶ
グループ演習
模擬研究計画発表会

参加者からはおおむね良い評価をいただきましたが、改良すべき点もありますので、今後さらにアップデートしながら、継続する予定です。多くの熱意ある先生方のご参加をお待ちしています。(CReSS WG委員長：勝沼俊雄先生)

第2回メディカルライティングセミナー 2017年2月11日

研究のゴールは成果の論文化です。そこで2016年2月に第1回メディカルライティングセミナーを開催、論文執筆のコツを学んでいただき、たいへん好評でしたが、今年度も続けます。2017年2月11日、東京の一橋講堂で開催予定です。ぜひご参加ください。

第2回メディカルライティングセミナープログラム(予定)

10:00~12:00	論文執筆の基本 (アラメディック株式会社代表取締役, 日本メディカルライター協会評議員)	林健一先生
	・IMRDにしたがった論文の書き方とツボ ・学会抄録の書き方	
13:00~14:50	論文に必要な英語表現 (東京医科大学 医学教育学分野 准教授)	R. ブルーヘルマンズ先生
	・カバーレターの書き方, レビューアーへの対応 ・日本人が間違いやすい誤表現	
15:00~16:50	基本的な統計手法の使い方 (中央大学理工学部教授, 日本メディカルライター協会理事長)	大橋靖雄先生

GSK 医学教育事業助成に応募、採択されました！ 2017年5月開催予定

小児アレルギー診療のレベル向上、均てん化も学会の重要な使命です。今回、グラクソスミスクライン株式会社が社会貢献として、学会などが行う医学教育事業への助成を行うこととなり、公募がありましたので、本学会として、足立雄一先生をリーダーとするワーキンググループで案を練っていただき、応募しましたところ、採択されました。3年間の事業となります。

若手小児科医に、小児アレルギー診療の基礎となる知識と手技をマスターしてもらうことを目的に、「小児アレルギー教育セミナー（仮称）」を年に1回開催、さらにビデオ教材を作成してセミナーに参加できない小児科医への啓発活動を行う予定としています。

セミナーは、ミニレクチャー（クリッカーを用いてQ&A形式の双方向性レクチャー）と小グループに分かれてのハンズオンセミナーで構成、アレルギー概論、喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの4コースを準備します。ビデオ教材は上記レクチャーやハンズオンセミナーの手技を、日本小児アレルギー学会のホームページより閲覧できるようにして、視聴後の習得度評価も可能とするものを検討しています。どうぞご期待ください。

（小児アレルギー教育セミナーWG 委員長：足立雄一先生）

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン改訂作業進む：2017 秋刊行予定

ガイドライン委員長の荒川浩一先生のリーダーシップの下、2017 年秋の発刊を目指して、JPLG の改訂作業が進んでいます。今回のガイドラインから EBM の手順に則って作成することになりましたが、これまでに8つのCQに対するシステマティックレビュー（SR）が完了、レポートが提出されました。短期間で完成させたSRチームの先生方の多大な尽力の賜物です（SRチームリーダー：二村昌樹先生、サブリーダー：岡藤郁夫先生、山本貴和子先生）。

現在、ガイドライン委員会は主にウェブ会議で議論を深めていますが、日本アレルギー学会（成人喘息専門医）、日本小児呼吸器学会、日本外来小児科学会、日本小児難治喘息アレルギー疾患学会、患者団体など外部委員もご参加する拡大ガイドライン委員会でも幅広いご意見をいただき、よりよいガイドラインをめざしています。2017年の春にはドラフト版を公表、パブリックコメント募集の予定です。

（ガイドライン委員長：荒川浩一先生、副委員長：足立雄一先生 海老澤元宏先生）

理事会メール審議一覧(2016 年 4 月後半以降)

- No. 20 20160913 日本小児科学会医療安全委員会からのアンケート回答案
- No. 21 20160920 疫学調査WG設置および委員について

評議員会配信メール一覧

- 20151209 小児科学会より平成28年度治験候補薬及び治験候補機器等推薦のご案内
- 20160725 第56回日本小児アレルギー学会 会長選出について
- 20160830 評議員会開催のご案内とご出欠の確認
- 20160909 第17回小児医学川野賞候補者の募集について

上記を含めて、学会業務へのご質問、ご意見がございましたら、いつでも事務局までご連絡ください。メール： office@jspaci.jp